

四月十五日。前田利家・利勝等、聚樂亭に於いて廷臣に誓書を上る。

【聚樂第行幸記】

一九七八

敬白起請文前書

一、今度於聚樂行幸被仰付之趣、誠に難有催感涙之御事。

一、禁裏御領所地子以下、並公家衆所々之知行等、若無道之族於有之者、爲各堅加異見、當分儀者不及申、子々孫々無異儀様可申置御事。

一、關白殿被仰出之趣、不依何篇不可違背申御事。

右之條々、若雖爲一事令違犯者、梵天帝釋四大天王、惣而日本六十餘州大小神祇、殊王城鎮守、別而春日大明神・八幡大菩薩・天滿大自在天神・氏之神、部類眷屬、神罰冥罰可罷蒙者也。仍起請文如件。

右近衛權少將

天正十六年四月十五日

豐臣利家 血判

(其他略)

菊亭右大臣殿

勸修寺大納言殿

中山大納言殿

【聚樂第行幸記】

一九七九

敬白起請文前書

一、今度於聚樂行幸被仰付之趣、誠に難有催感涙之御事。

一、禁裏御領所地子以下、並公家衆所々之知行等、若無道之族於有之者、爲各堅加異見、當分之儀者不及申、子々孫々無異儀様可申置御事。

一、關白殿被仰出候趣、不依何篇不可違背申御事。

右之條々、若雖爲一事令違犯者、梵天帝釋四大天王、惣而日本六十餘州大小神祇、殊王城鎮守、別而春日大明神・八幡大菩薩・天滿大自在天神・氏之神、部類眷屬、神罰冥罰可罷蒙者也。仍起請文如件。

越中侍從

天正十六年四月十五日

豐臣利勝 血判

(其他略)

菊亭右大臣殿

勸修寺大納言殿

中山大納言殿

(行幸は四月十四日より十八日に互る。)

閏五月八日。前田利家、羽咋郡邑知郷の百姓に、菅原の藏米を羽咋まで運輸せしむ。

【菅原村行長文書】 羽咋郡 一九八〇

以上

菅原ヨリ藏米出候間、七十五村人數を以、はく井まで可出候也。

天正十六

壬五月八日

(前田利家) ちくぜん 在印

新兵衛

太郎衛門

行長

○

【菅原村行長文書】

一九八一

敷波藏之米五千俵船庭まで出候分、四ヶ七十五村押水之人夫を以、より合可出候也。

天正十六

六月廿二日

(前田利家) 在印

山口次右衛門へ

【菅原村行長文書】

一九八二

以上

七十五村御公領分并在々小百姓までも、他國へ越候者聞届可申上候。若後日に聞候者、其在所急度可令成敗候。自然走百姓有所など候はゞ、聞届則可申上候。可成其意者也。

極月廿五日

(前田利家) 在印

(第二通・第三通はこれを合叙す。文中の七十五村は邑知院に屬する區域、押水は押水庄なるべく、船庭は羽咋湊を指すものゝ如し。又四ヶといふは明らかならざれども、後世甘田保・加茂庄・大坂保・土田